

名 称	宝達志水町体験活動支援センター
所 在 地	〒929-1392 石川県羽咋郡宝達志水町小川ハ250番地
連 絡 先	TEL : 0767-28-5518                      FAX : 0767-28-5541

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口     宝達志水町   15,500人

石川県のほぼ中央部に位置し、県都金沢市からは約35kmの位置にある。東部は宝達山丘陵地、中央部は子浦川、長者川、相見川、宝達川、前田川流域に広がる扇状地、西部は日本海沿いの砂丘地の地形を有しており、山と川と海に囲まれた自然豊かな地域である。

県内で最初の旧石器が宝達志水町御館で発掘され、縄文弥生時代の遺跡が各地で発掘されていることから、古くから、旧志雄・押水の辺りは開かれた地域であったと思われる。また、加賀藩時代には、藩政の末端を担う十村役として、「岡部家」・「喜多家」が歴史に登場し、この地域の政治、産業などに加え、地域の祭事などの農民生活全般にわたって、両地域は深いつながりをもっていたことが伺える。こうした歴史や文化を体感できる史跡などが現在も地域に点在しており、自然とともに、貴重な地域資源となっている。

## 事業の名称、活動概要

名称 宝達山クリーン登山（環境教育）

本町の児童・生徒を対象に、自分が生まれ育った町の自然や歴史を、大切に守り育てる心を育むために、学校への支援と家庭・地域をつなぐ事業の充実を図っている。自然を生かした体験活動や連携活動など、異年齢の活動場面を通して、集団での自分の役割を理解しながら学ぶ事業を展開している。この事業が更に拡大し、地域全体で取り組む事業に発展させ、全国に発信していきたいと思っている。

## 事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

本町は、自然豊かな町であるが、町の象徴である宝達山に対する児童・生徒の関心は低い。また、本町は少しずつ人口が減少する町でもある。若者のふるさとへの愛着が薄れ、宝達山の重要性を理解することなく成長し、別の場所で生活する若者が増えてきている。

学校教育でも、近年では宝達山への登山学習がほとんど行われなくなった。このような条件の中で、体力の向上を基本に、異学年交流やリーダーの育成、更に、ふるさと教育を含む環境教育を展開することにより、様々な課題に対応していく力をつけさせたいと考えた。

小中高の連携に関して、教育委員会が主導して行うことにした。事業実施に当たっては、町社会教育委員やPTA等にもご協力いただいた。

## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

教育委員会が主催し、小中高担当者が集まり連絡調整のための打合せ会を行った。また、町社会教育委員からは、社会教育の観点から意見を述べていただき、より良い事業の実施を目指した。

教育委員会は、日程等の大枠の提案を基に、それぞれの年齢に応じた役割分担するとともに、要望等について自由に意見を出し合い、誰もが主役となれるような配慮をした。特に高校生には、リーダーとしての自覚を促す指導の徹底に力を入れてきた。

### ② 活動の展開内容（活動段階）

平成14年度より、実行委員会を開催し、小中高の先生方と事務局（教委）が提案した内容について確認した。年齢に応じて5つのコースに振り分け、それぞれの担当区域をゴミ拾いしながら登山を実施した。頂上には、たくさんのゴミが集まった。また、PTAの力をお借りして、参加者全員に豚汁を振る舞い、労をねぎらった。さらに、町の象徴である宝達山の環境を守っていくことを宣言してきた。平成17年度は、3月に市町村合併があったが、事業は継続され、6コースとして実施した。ゴミは徐々に減っており、活動の成果が現れてきた。平成18年度からは、町社会教育委員のアドバイスで、ゴミ拾い活動に併せて、植樹事業も取り入れ、町の環境教育の重点事項として実施されることになった。平成19年度には、クマの出没が問題となり、子どもたちの安全をより確実にするために、石川県猟友会羽咋支部のご協力や、参加する子どもの安全に対する保護者、地域の方々に理解を得て事業を進めた。さらに、ふるさと学習の一環として、講師の先生をお招きして、地域に関するお話を聞くことでふるさとに興味を持ってもらうよう努めた。

内容は次のとおり。

#### ○ゴミ拾い登山

小学5年生と高校2・3年生各自がゴミ袋を1枚ずつ持ち、2人のペアで行動する中で「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」をそれぞれ担当・協力して登山をした。また、高校生はリーダー性を発揮し、小学生を先導することや体調不良の児童のお世話、積極的なコミュニケーションを取ることで、異学年交流を充実したものとしてきた。

#### ○入学記念植樹

本町の中学校と高校に入学した1年生を対象に、植樹を実施した。苗木は、コナラ（ドングリ）を選んだ。落葉した葉が堆肥となって樹木を育み、山の保水効果を高め、私たちの生活に潤いを与えてくれることを考えた。生徒たちには、30年後、同じ場所を訪れたときに、自分の子どもに対して、環境教育に参加して、山を守り育てる活動をしてきたという証に、プレートを立てて家庭教育をしてもらいたいと願っている。

#### ○講演会

本町の象徴である宝達山の山頂公園において、宝達山に関するお話を講師の先生にしていただき、ふるさと教育として実施した。

### ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

打合せ会において、教育委員会、社会教育委員、学校とで、事業に対する目的等を確認するとともに、お互いの情報を共有し、町全体への周知が図られた。

現在、ゆとり教育及び学力向上に向けての取り組みが期待される中で、学校行事を削減される傾向にあったが、教育委員会においては、将来を担う子どもたちを育成することや、学校教育としての環境教育やふるさと教育を促進する観点から、学校行事として実施することを要請した。

## 事業の成果と今後の課題

成果として、小中高が一緒に行動することにより、普段交流することが少ない異年齢の人たちと協力して活動できたことが大きな収穫である。小学生は高校生を慕い、高校生は小学生の面倒を見て活動することで、より人間的な成長が伺えた。頼もしいお兄さんであり、正直で素直な弟のような存在であったと思われる。

また、自然豊かな宝達山であっても、ゴミを捨てていく登山者に対する啓発効果とともに、宝達山の自然を守ろうというボランティア精神が育まれてきている。

さらに、中学生に、記念植樹を通して植樹の効果を学んだことにより、自らの守り育てた山であることの自負心を持ってもらいたいと願っている。30年後、植樹場所を訪れ、自分たちが守り育てた山であることを我が子に語らせることで、家庭教育の一助となることを期待している。

課題として、植樹場所へ到着するまでにかかり時間がかかるため、日程が大変窮屈である。特に、植樹に関しては、形式的なものであるために、自らが守り育てたという意識を持たせる力が弱いように思う。登山を実施する前や後の学習を充実させると同時に、社会教育委員や地域の方々の協力を得て、資料を作成し、より充実した登山活動になることを目指したい。



小学生と高校生の顔合わせ会



ゴミが落ちていない山を目指して



小学生と高校生が仲良く登山



保水効果を高める樹木



高校生による豚汁の提供



宝達山を知るための学習会

執筆者職・氏名：宝達志水町教育委員会 生涯学習課

派遣社会教育主事 金子 義和

コーディネーターからの一言コメント

小・中・高等学校が連携・協力し、町民が誇りとしている宝達山をテーマとしたプログラムによって環境や自然保護、地域について学ぶ機会を提供しているが、今後はより多くの町民の知恵や技術などを結集し、町の一大イベントになることを期待したい。

(木村 清一)